

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1	会 議 名	平成 29 年度 姫路市自然保護審議会
2	開催日時	平成 30 年 1 月 22 日（月曜日） 9 時 30 分～14 時 00 分
3	開催場所	地内町、坊主町、夢前町前之庄及び夢前事務所 2 階会議室
4	出席者又は欠席者名（敬称略／50 音順） （出席者）相坂耕作、家永善文、大西公子、古角孝之、嵯峨山務、清水伸一郎、 松岡廣幸、圓尾哲也、宗實久義、毛利幸弘 （欠席者）なし （事務局）建設局長 佐野直人、公園部長 森貴之、公園緑地課長 大谷一司 同係長 福田喜信、同主任 池田充弘、同再任用 前田盛雄	
5	傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人 0 名
6	議題及び結論等 【議題】 保存樹候補樹木の指定の可否について 【結論】 6 本の候補樹木全てを保存樹に指定することについて可とする。	
7	会議の全部内容又は進行記録 詳細については別紙参照	

1 局長挨拶

2 新委員紹介

清水委員及び松岡委員を紹介

3 議題

(1) 現地視察

ア 視察内容

地内町、坊主町、夢前町前之庄の保存樹候補樹木がある 3 箇所の視察

イ 現地説明概要

今回の審議は、管理者から申し出のあった地内町並びに事務局の調査による坊主町及び夢前町前之庄の 2 箇所にある樹木を姫路市自然保護条例の規定に基づき、保存樹に指定するにふさわしいか否かを審議するもの。

（以上、地内町へ向かうバス内で説明）

（以降、各視察地において、候補樹木の大きさや同種の保存樹の指定数や平均値、樹木にまつわるエピソード等を資料に基づいて説明）

(2) 保存樹の指定

ア 保存樹の指定の可否についての審議

現地視察及び事務局が準備した資料に基づき、保存樹候補樹木の指定に関して各委員が意見を出し合い、最終的には委員の多数決にて可否を決し、別紙「平成 29 年度審議結果一覧表」のとおり決定した。

現地視察及び最終審議時に出た主な意見、質問及び多数決の結果は以下のとおり。

(ア) No. 1-1 イチョウ・No. 1-2 イチョウ、クロガネモチ、ムクノキ・No. 1-3 カヤ
地内町 姫路船場別院本徳寺

〔委員の主な意見〕

- ・資料中の植物の分類体系が変わっている。ムクノキとエノキは DNA 分類によりニレ科からアサ科に変わっている。
- ・No. 1-1 イチョウは、木そのものは痛めつけられて格好が悪いが、戦災を乗り越えてきた等の謂れがある。こういう木こそ保存すべきである。
- ・北側の幹半分は樹皮もついておらず、その上部の枝も枯れていた。南側の枝は勢いよく伸びていた。バランス的には倒れそうな感じもする。
- ・このイチョウは雄の木である。乳（ちち）がついている「乳イチョウ」である。寺のイチョウは乳を削られることが多いが、この木には残っている。乳を削って煎じて飲むと母乳がよく出るといふ謂れがある。有名なのは白浜町の松原八幡神社のイチョウであり、大きい乳がついている。
- ・No. 1-2 は、イチョウとクロガネモチとムクノキが合体する様に成長している。
- ・クロガネモチの成長はムクノキより遅いため、ムクノキの方が大きくなるだろう。
- ・このイチョウは雌であり、銀杏が落ちていた。クロガネモチは常緑樹で雌雄異株であるが、この木は雌である。
- ・3 種類の木が競争すると枝ぶり等難しいことがあるだろうから、まとめて 1 本の保存樹として考えて保護するほうがよい。

- ・合体木とその周囲の木は離れているため共存できるであろう。
- ・No. 1-3 カヤは下の方からもよく育っており立派な形である。カヤの既指定保存樹としては田寺にもあるが、その木と比較すると幹周は細い。
- ・カヤはめでたい木と言われており、その実を正月に家で食べて枝を飾る風習がある。また、碁盤や将棋盤にも利用されている。
- ・根元から若芽が多く出ているので、専門家に意見を聞いた上で処理したほうがよい。

[委員からの質問]

- ・No. 1-2 について、3種類まとめて1本として保存樹の指定をする場合、年間管理補助金はどうなるのか？

[事務局]

- ・1本の単独樹木扱いとして補助金を交付する。同一敷地内において単独樹木が複数本ある場合は、1本目は年間3,000円の補助金となり、2本目からは1本当たり年間1,500円で計算する。

[多数決の結果]

No. 1-1 イチョウ 全員が指定可

No. 1-2 イチョウ、クロガネモチ、ムクノキ 3種類まとめて1本として全員が指定可

No. 1-3 カヤ 全員が指定可

[その他]

- ・管理者から敷地南東部にあるクスノキも見て欲しいという要望を受けていたため、現地確認したが、クスノキは保存樹として多数指定していることもあり、審議対象には挙げなかった。
- ・近年、関西でクスノキの落葉が多いのは、中国原産の外来種であるクスベニヒラタカスミカメというカメムシが大発生しているためと言われており、注意が必要である。

(イ) No. 2 エノキ 坊主町 野里小学校

[委員の主な意見]

- ・根元が歩道のスペースとの兼ね合いで狭くなっており、窮屈そうな木である。枝が苦勞して伸びており、盆栽の様な格好になっている。幸いにも面する道路に大型車の通行が少ないため、木が邪魔にならずに済んでいる。
- ・城陽小学校のエノキと同じ位の大きさであり、城陽小学校の木は地域から愛されていた。野里小学校のエノキにも地域の思い入れはあるのだろうか。
- ・保存樹には校区のシンボルになって欲しいという願いがある。しかしこの場所の近くである姫路城の濠には木が多数あるので、この木に対する地域の特別な思い入れは少ないかもしれない。小学生がこの木を大切にしているとか校歌に歌われている等のエピソードがあればよいのであるが。
- ・校長先生に聞くと小学生がエノキの落ち葉を掃除する等、よく面倒を見ているようだ。
- ・野里校区には保存樹が無いので、その点については考慮に入れたほうがよい。

[委員からの質問]

- ・エノキは学校の塀の外側にあるが、学校と道路のどちらの管理であるのか？

[事務局]

- ・確認したところ学校の管理となっている。

[多数決の結果]

No. 2 エノキ 可 9 人、否 1 人により指定可

(ウ) No. 3-1 コジイ・No. 3-2 ツクバネガシ 夢前町前之庄 天神宮

[委員の主な意見]

- ・No. 3-1 コジイは、見応えのある木である。曾左、広峰、増位、置塩校区にはシイが多数生息している。人の手が加えられていない極相林にはシイが多い。このコジイは、人の手が加えられてきた神社の中でも大切に保護されてきた御神木の様な存在である。
- ・シイの種類によっては、ドングリの実を食べることができるものがある。
- ・No. 3-2 ツクバネガシは、傾斜部分に生えており、車道側の根が痛めつけられている。
- ・市木が「カシの木」である。カシの種類の中では、アラカシ、シラカシ、ウバメガシが一般的に多いが、ツクバネガシも大事にしなければならない。
- ・幹の上部が折れて傷んでいることが気がりである。下部の枝は元気そうである。
- ・車道側の根が痛めつけられた結果、根の吸水力が弱り、上部の幹に悪影響を及ぼし、強風等によって折れたのかもしれない。
- ・根の付近の舗装部分を透水性のインターロッキングで施工する等、改良をすればよいのであろうが、それは現実的に難しい。他には害虫の飛来による被害が心配である。

[多数決の結果]

No. 3-1 コジイ 全員が指定可

No. 3-2 ツクバネガシ 全員が指定可

イ その他意見等

[委員の意見]

- ・可能であれば、市木である「カシの木」の様々な種類を集めて、市のシンボルとなる林を作って欲しい。ドングリを撒けば 10 年程度で立派な木に育つ。
- ・本審議会は、自然保護に関する貴重な情報交換の機会となるので、可能な限り毎年度開催して欲しい。保存樹については、巨木に限らず珍しい種類や地域にゆかりの深い木も審議対象にふさわしいと考える。また、保存樹以外にも保護すべき珍しい動植物等があれば審議対象に挙げて欲しい。